

BALL STATE UNIVERSITY

ボールステイト大学 2017年8月～2018年5月
東京学芸大学A類英語選修 茂木麻希



私は留学しない、という逃げ

私は、大学入学当時、留学は絶対にしないと決めていました。お金や英語力を懸念して留学に行けない理由ばかりをみたり、日本という環境でも成長の機会があったので留学に行かなくても今のままで満足しているという言い訳をしたり、しいには、留学に行かなくても英語がペラペラになれば生徒にとって良いロールモデルの先生になれるのではないかと、などといった持論を展開していました。

しかしある時に、現職の英語の先生とお話した際にこんなことを言われました。「そんなちっぽけ

なプライドで留学に行かないなんてもったいないね。今あなたが想像している留学に行くことのリスクなんて大したことないのに。オトナになって後で留学に挑戦しなかったことを後悔することの方がよっぽどリスクだよ。」その言葉を聞いて私はハッとしました。本当は留学をしてみたいという思いがあったことに気づきました。自分の思いに蓋をして、行動することから逃げていたように思いました。

留学の決断をすることは、どのタイミングであったとしても簡単なことではありません。しかし、もし今少しでも留学をしたいという思いがあるのであれば、勝手な思い込みだけを手掛かりに悩むのをやめて、行動する時なのかもしれません。

留学することが目的ではなくなった

私は、大学の交換留学制度を利用するだけでなく、トビタテ!留学JAPAN日本代表プログラムの6期生としても派遣されました。留学のテーマは「アメリカでディベート教育を研究し探究型ディベート教育を日本で確立する」というものでした。そもそもトビタテに応募したのは、手厚い奨学金を得るためだけではありません。私は留学に行く目的が漠然としすぎていたため、このまま留学しても現地で主体的に行動できないのではないかと、という不安がありました。そこでトビタテに応募し具体的なテーマをもって留学をしたいと思いました。

トビタテの選考書類作成や二次試験受験のために、4ヶ月間くらいかけて準備をしました。テスト期間等で忙しい時期も毎日のように留学先のことを調べたり、留学中や留学後にやりたいことを考えていました。帰国後の今だから言えることですが、あの頃に考えた志望書類や計画書の通りの留学になるはずもないのですが、あれだけ本気で自分と向き合えた時間があつたからこそ留学中にも日々向上心を持ってより良い一日を過ごす工夫ができたのだと思います。

留学をすることが目的ではなく、留学という機会をいかに最大限に利用して成長できるか。これが留学前の準備の中で最も大事なことだと思います。



日本で一番になれなかった私がアメリカで一番になれた

私はアメリカのディベート教育について学ぶことをテーマとして活動しました。ディベートは、お題に対して賛成派と反対派で討論をして勝ち負けを決めるゲームです。私は高校生のころから英語ディベートをしており、大学ではサークルを創設して活動していました。しかし、これまでディベートでの成功体験はなく、何度国内の大会に出ても予選落ちを繰り返しました。実は英語でディベートを展開することへのコンプレックスを抱えていたのです。

そんな私ですが、渡米後すぐに派遣先大学のディベート部に入部しようとしてオリエンテーションに参加しました。(なぜならトビタテの書類でディベート部に入りますと書いてしまったから。)しかし、日本人の私がネイティブと英語でディベートができるわけがないと怖気づいてしまい、オリエンテーションが始まる前には教室を退出していました。アメリカに来てまで私は何をしているんだろう、という後悔のまま数か月を過ごしました。

このままでは帰国できないと思い、私は2学期目から、ディベートの授業を受講することにしました。ところが私は、言語使用能力の高いクラスメイトに圧倒されて初めの授業にうまくついていけず、あまりの怖さに私は再び教室を立ち去り受講を諦めようとしていました。しかし勇気を出して教授の元へ行き、「私は正直今日の授業は分かりませんでした。」と正直に相談しました。すると教授は大きな声で笑って、「すごいな君は。君だけだよ、自分ができないことを認めて相談しに来たのは。アメリカ人にも難しい授業だったのに、誰も質問に来なかった。君だけが自分の弱さを認めてちゃんと乗り越えようとしているじゃないか。君は強くなる。弱さを認めたやつが一番強いんだ。」と言われました。その会話をきっかけに私は大学のディベートチームへの入部が決まりました。

私は留学中、楽しい体験もたくさんしましたが、最も印象的なのは日々のディベート部でのきつい練習でした。英語が第二言語の私にとって言語の面で大きなハンデがありました。しかし、私のコーチが常にくださっていた言葉がありました。それは、「君は誰よりも自分の弱さを知っているから強い。」私はネイティブ並みの英語力がないからこそ、いつも人の話をよく聞いて冷静に注意深く判断していました。またチームの中で誰よりも準備に時間をかけていたため準備量では誰にも負けませんでした。結果的に、州大会、地区大会を突破し、最終的に全米ディベート大会での優勝を勝ち取りました。アメリカ人しかいない大会の中で留学生としては初めての成果でした。



一歩踏み出さなければ本当の君に出会えない

日本にいたときは、自分の苦手なことは上手く避けて器用に生きていくことができました。しかし、留学先では困難と本気で向き合い、恥を捨てて行動し解決をする大切さを知りました。日本では出会えなかった弱い己を知っていることとそれを乗り越えた経験が、今の私の強みです。

留学は簡単なことではありません。たくさんの困難が待っています。けれど、その困難はすべて日本にいたときからあなたが抱えている課題にすぎません。日本の環境に甘んじて、変えられなかった自分と向き合うチャンスです。皆さんもぜひ大学生のうちに留学という成長のチャンスをつかんでみてください。居心地の良い日本を飛び出してみた方が、本当のあなたと出会えるかもしれません。

